

のぞかせている。(写真1)

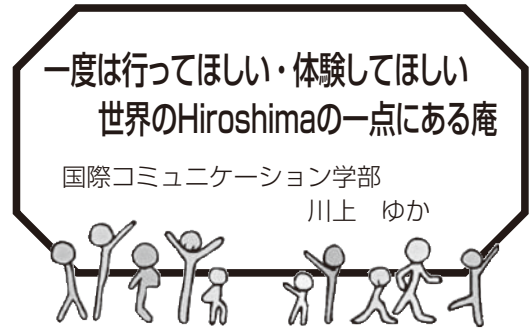
耳を澄ますと、その氷塊同士が擦れて発生する「ギギギ」や「ゴリゴリ」という音が常に鳴っているのだ。文字にすると、あまり魅力が伝わりにくいですが、こうした、自然の摂理が発する音に筆者は抗しがたい魅力を感じてしまい、ずっとでも聞いていられます。(一度、実際にずっとベンチに座っていたら、Are you OK?と地元の人に心配されてしまった(苦笑)。)

そして、湖面の美しさは、天候や時間帯によって様々な違った表情も見せてくれる。写真2は、晴れた日の夕暮れ時をねらって湖畔に降りたときのものである。オレンジの夕日が空には横一文字の帯をなし、白く凍る湖面には、一筋の光道を形成し、撮影者を誘うかの如くである。(どこへ?)興味を抱いた読者は、ぜひ「Lake Ontario winter sunset」で画像検索をしていただきたい。

最後に写真3であるが、これは岸辺の氷にできた割れ目から、薄く青みがかった湖水が湧き出ているところである。この青の美しさは、私がこれまで見てきたどの水の色よりも美しいと言っても過言ではない。ここに前述の、氷塊の擦れる音に加わるのであるから、これはもう何時間でも見ていられるのである。(いや、すみません、実際には1時間くらいで凍えてしまうのですが。)こちらの方も、「Lake Ontario winter」などで画像検索してみてください。

もちろん、温かい土地にも生命力の横溢を感じさせる美しさがあり、甲乙はつけがたい。しかしながら、極寒の地においてしか体験できない、厳しさと隣り合わせの、あるいは、それと融合した美しさこそ、筆者は至高の美を感じるのである。カナダを訪れる機会があれば、ぜひとも体験していただきたい。

もちろん、防寒には十分に配慮の上で。



これまでに一度は広島に行かれたことがあるでしょうか？

「広島」と言えば、何が思い浮かびますでしょうか？

そうですね～例えば…

お好み焼き…おいしいですよ。でも、私は関西風の方が好きです。

牡蠣…うん、私は生牡蠣が苦手です。

原爆ドーム…是非とも実際に足を運んで見ていただきたいです。

宮島…原爆ドーム横の栈橋から出ている高速船に乗っていくと楽しいですよ。

カーブ…ドラゴンズ本拠地でのコメントは控えさせていただきます。

などでしょうか。

私は昨年3月に広島から名古屋に引っ越してまいりました。それまでは4年ほど広島に住んでおりました。生まれは広島なのですが、いろいろな土地を転々とし、5年前に久しぶりに広島市民に戻るになりました。ん十年ぶりの広島は私にとって懐かしくもあり、外国のようでもありました。



空点庵さん (外観 1)

インバウンドに人気の観光地ランキングでは、世界遺産の原爆ドームや厳島神社（宮島）は常に上位にランクインしており、街では観光客や修学旅行生をよく見かけました。また、マツダスタジアムで試合がある日は、バスや電車（新幹線の中にも！）に赤い人率が高くなり、肩身の狭い思いをすることもありました（野球は全く詳しくありませんが、球団マスコットは大好きで、カープのマスコットであるスライリーさんのグッズは結構持っています）。

私は広島で4年間、日本語の先生として外国人留学生や日本人学生と授業内外で様々な活動をしていました。日本人学生向けの授業で日本語の表記について考える回の導入のとき、「広島」を日本で使われている文字で書いた時の印象の違いについて聞いたことがあります。

「広島」「ひろしま」「ヒロシマ」「Hiroshima」、それぞれのあなたの印象はいかがですか？

広島県民がマジョリティである受講生からは、カタカナの「ヒロシマ」に原子爆弾投下に関連するイメージがあるという声があがりました。あなたはどのようにでしょうか？

余談が長くなってしまいました。さて、広島で一度は行ってほしいところと言えばどこだろ



空点庵さん (外観 2)

う？

う～ん…担当した留学生に人気があったところは、大久野島（うさぎ島）や鞆の浦（崖の上のポニョの舞台）、尾道（ラーメン）などですが、今回ご紹介したいのは、広島市西区にある三瀧寺の敷地内にある茶房「空点庵」さん（広島市西区三滝山411）です。

とある授業で「留学生がおすすめる場所」をテーマに動画作成をする活動を行ったとき、一つのグループがこの茶房を是非とも紹介したいと言ってきました。ここはご夫婦で経営されている茶房で、まずは取材交渉から始めました。やさしそうな女将さんとのやりとりで、取材と撮影の依頼をし、日程を決め、インタビュー内容もしっかり準備し、いざ取材へと向かいました。到着すると、空点庵のご主人は一見怖そう（実際は違います）、バリバリの広島弁ネイティブの方でした。取材に行った留学生は困惑するとともに緊張し、準備した質問項目はほとんど聞けず、時間だけが過ぎていきました。

そんな様子を見かねた女将さんがコーヒーやかき氷を持ってきてくださり、一気に雰囲気が変わりました。その日の取材は結局無事には終わらず、その後、そのグループの学生たちは何度も空点庵さんに足を運び、不足していた取材内容を補完しつつ、ご夫婦との交流を深めたそうです。

ご主人によると、空点庵というお店の名前は「色即是空」の「空」、宇宙（空）の中の一「点」にある小さな「庵」ということだそうです。清水を使ったふわふわのかき氷、さわやかな甘みのわらび餅などがおいしく食べられる茶房です。是非、広島に行かれる際は、三瀧寺に参詣し、三滝山を散策し、ちょっと歩き疲れたら、空点庵さんで甘味を堪能してみたいはいかがでしょうか。

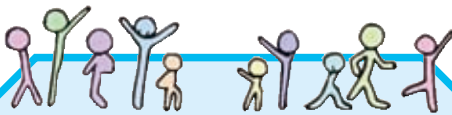


空点庵さんのかき氷とわらび餅とアイスコーヒー

留学生が紹介「広島のおすすめの場所」その2:

<https://www.facebook.com/HSUInternationalAC/videos/2398997397053246>

※件の留学生グループが作成した空点庵さんを紹介する動画※



中国の大学で留学生生活を送ること

文学部 臼田 真佐子

愛大には交換留学の制度があり、学内の試験に合格すると、中国語圏でいえば中国、台湾への留学が可能となる。2020年春頃から感染症のため、交換留学の試験に通っても留学が叶わない状態が続いており、教員としても残念に

思っている。短期セミナーという自費で語学研修をする制度があっても、中国の場合ここ数年希望者が少なく、実施されていない。

中国の大学は9月に新学年が始まる。次の年の春節を境に、学校によって多少違うが、一か月程度の休みがある。春節は旧暦によるので年によって異なり、1月下旬から2月中旬あたりになる。7月頃には卒業式が行われる。

2019年9月初め、上海の復旦大学図書館に行き、古籍を閲覧した。ちょうど新学年が始まった時だった。1989年9月初めに復旦に留学に来たことを懐かしく思い出した。今回は古籍閲覧に来ただけで、お昼をどうするかということは頭を悩ます。学内の食堂は学内者しか利用できないシステムで、チャードカードが必要なのが普通である。それで、学外に行くことになる。幸い上海にはお店がたくさんあり、復旦のキャンパスから少し歩くと、日本料理の店が開店したばかりで、そこにも立ち寄った。そして、驚くことに図書館入口の横にカフェまで開店していて、座席は結構埋まっていた。復旦に留学していた時、そのようなカフェはなかったし、留学後何回か図書館を利用した時もあった。つい最近で来たようだ。

上海だと今では留学生宿舎に住まなくても、学外のマンションを借りることもできると聞く。私が留学した時は留学生宿舎に全員住み、原則2人部屋なので、1人部屋にしたいときは奨学金から引いてもらうことになるが、部屋代を差し引くと手元には食費に足りるか足りないか程度しか残らなかった。学費は免除で、これは大変ありがたいことである。食事は留学生食堂が朝昼晩と開く。自炊もできるが、調理場と冷蔵庫は共同で、時間帯によっては順番待ちのこともある。お湯は給湯器があり、自分で沸か